

# 平成24年度 21世紀土地改良区創造運動 北海道大賞

## 受賞地区の概要

～新たな水土里ネットの創造～

○道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織

○道民・国民の要請に対応した農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていきける組織

を目指して



平成24年8月30日

水土里ネット北海道  
北海道土地改良事業団体連合会

## はじめに

21世紀土地改良区創造運動(以下「21創造運動」)は平成13年度から始まり、14年度には土地改良区の愛称「水土里ネット」が決定し、以降、この愛称の普及を含め土地改良区の役割の一層の発揮等に向けた多様な運動が全国的に展開されております。

また、平成15年度には、全国水土里ネットにおいて、全国の模範となる優れた運動や示唆に富む運動を展開している水土里ネットを表彰する「21創造運動大賞」が創設されました。

このような中で、本会は、21創造運動を一層推進する支援体制の強化を図るため、「21創造運動表彰選考委員会」を設け、平成16年度から「21創造運動北海道大賞」を選考しております。

21創造運動は、水土里ネットの役割・機能を再認識するなど自己確認、自己変革に取り組む(内部運動)とともに、農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の資源保全の重要性と水土里ネットの果たす役割などについて広く理解の醸成を図る(外部運動)ものであります。今後とも水土里ネットが、道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、また、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織として発展するためには、これからも着実に継続して21創造運動に取り組んでいかなければなりません。

本会は、この表彰を通じ、関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげ、さらなる運動の推進と新たな展開が図られるよう支援して参ります。

## I 21創造運動北海道表彰について

### 1. 21創造運動表彰の趣旨

「水」「土」「里」は食料の安定供給や農業・農村の多面的機能の発揮の基盤となる社会共通資本。道民・国民の財産であるこの「水」「土」「里」を良好な状態で次世代へ継承するため、水土里ネットでは、農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織を目指して、21創造運動を積極的に展開している。

このような中で、模範となる運動を展開している水土里ネットの表彰を通じ、活動に取り組む関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげることにより、水土里ネット関係者の運動への取り組み意欲の高揚と意識改革を図るとともに、運動のさらなる発展と新たな展開に資する。

### 2. 21創造運動表彰の選考経過等

#### (1) 選考対象

21創造運動に積極的に取り組み、北海道の模範となる運動を行うか、又は、他の運動に対して示唆を与えうる運動を行っている水土里ネット。

#### (2) 選考方法

本会「21創造運動表彰選考委員会」が、道内77水土里ネットの取組状況を精査し、北海道大賞を選定する。

#### (3) 「21創造運動表彰選考委員会」委員

委員長	梅田安治	農村空間研究所長、北海道大学名誉教授
副委員長	浜田哲	美瑛町長
委員	長澤徹明	北海道大学名誉教授

委員	森	久美子	作家、エッセイスト
	小田	たず子	消費生活コンサルタント
	野城	正功	農政ジャーナリスト
	平見	康彦	北海道開発局農業水産部調整官
	中島	克彦	北海道農政部農村振興局長

#### (4) 選考基準

水土里ネットが取り組む21創造運動での愛称の普及、都市と農村との交流、地域住民等と連携した地域づくり、総合学習など学校教育との連携、先駆的な農業・農村振興、環境・景観保全、多様な広報などの推進において、その運動の取組体制、意味性、継続性・発展性で優れた活動が行われ、地域住民の理解促進や地域振興に貢献するなど運動の成果が認められること。

##### 1) 運動の取組体制

①役職員の積極的な参加 ②運動を担う後継者の育成

##### 2) 運動の意味性

①基本理念の明示 ②歴史の歴史の伝承 ③先駆的な取組

##### 3) 運動の継続性・発展性

①持続的な運動の展開 ②発展・拡大 ③運動の計画性 ④多様なツールの活用

##### 4) 運動の成果

①多様な連携 ②地域住民の理解 ③地域資源の保全強化

④農地・水・環境保全向上対策との連携 ⑤地域に貢献

#### (5) 選考経過

##### ○表彰選考委員会

期 日 平成24年8月2日

##### 選考内容

- ・21創造運動北海道表彰の実施方針と選考基準等について審議。
- ・道内77水土里ネットの創造運動の活動内容について、①愛称普及②都市と農村の交流③関係団体・地域住民との連携④学校教育との連携⑤先駆的な農業・農村振興活動⑥環境・景観保全活動⑦多様な広報等⑧運動の成果—の8項目に分類し、それぞれの項目で各水土里ネットがどのような活動を行い、どのような成果が上がっているのかを整理。

##### 【北海道大賞の選考】

上記を踏まえて、これまで全国大賞、北海道大賞を受賞した以外の水土里ネットの中から、①から⑦の全ての項目について積極的に取り組んでいる8水土里ネットを北海道大賞候補として選考。その中から、選考基準をもとに特に優れた活動を展開している4水土里ネットを北海道大賞に選定。

##### 【全国大賞推薦の選考】

昨年度までに北海道大賞を受賞している24水土里ネットと、今回北海道大賞に選考された4水土里ネットの合わせて28水土里ネットの中から特に優れた活動を展開している1水土里ネットを全国大賞中央選考委員会（全国水土里ネット）へ推薦。

## Ⅱ 21 創造運動北海道大賞地区の概要

### 1. 水土里ネットほくりゅう（北竜土地改良区）

#### （1）水土里ネットの概要

- ①地区面積：2,919ha ②組合員数：234戸 ③関係市町村：北竜町、雨竜町  
④役職員等数：総代36名、役員9名、職員8名

#### （2）21 創造運動の主な取組

##### 都市と農村の交流

###### ◇地域イベントへの参画

北竜町商工会青年部が主催する「川はともだち！わんぱく夏まつり」に参加し、魚の放流等、水生生物に密着した体験を通じて、美しい河川の環境保全の必要性や農業水利施設の多面的機能、水土里ネットの役割をPRしている。



##### 学校教育との連携

###### ◇小学校の社会科見学に協力

町内の小学4年生の社会科見学会に協力し、児童を恵袋別ダムに案内。パンフレットやハーブ栽培キットを配付して、農業用水や農業水利施設の役割等をPRしている。



##### 環境・景観保全活動

###### ◇用水路敷地を活用した植栽活動の実施

農業用水沿いに250株のアジサイを植栽。毎年、夏から秋にかけて訪れた町民の目を楽しませている。



##### 多様な広報等

###### ◇パンフレットや看板の作成・設置

水土里ネットの役割などを紹介したPRグッズ等を作成し、イベント等で広く配付しているほか、PR看板を設置し農業水利施設の役割等の紹介と、農業用排水路の事故防止の呼びかけを行っている。



#### （3）受賞のポイント

- イベントへの参加や小学校の社会科見学等を通じて、水土里ネット、農業用水、農業・農村の多面的機能などの役割や重要性について積極的にPRしている。
- 農地・水保全管理対策の活動組織や地域住民と連携を図りながら、景観保全活動が計画的に行われており、年々参加者も増えるなど活動の輪が広がっている。
- イベントへの参加や学校教育との連携、景観保全活動などの活動が単発的な活動に終わるのではなく、持続的な運動として展開されている。
- パンフレットや看板など多様な広報ツールを活用したPRを積極的に行っている。

## 2. 水土里ネット空知川上流（空知川上流土地改良区）

### （1）水土里ネットの概要

- ① 地区面積：2,840ha      ② 組合員数：315戸
- ③ 関係市町村：富良野市、南富良野町
- ④ 役職員等数：総代30名、役員11名、職員4名

### （2）21創造運動の主な取組

#### 都市と農村との交流

##### ◇地域イベントへの参画

南富良野町が主催する「かなやま湖水祭りに」参加し、パネル展示やパンフレット配付し、農業水利施設の持つ多面的機能や水土里ネットの役割等をPRしている。また、富良野市が主催する「ふらのワインぶどう祭り」に参加し、上川総合振興局等と連携して施設のPR活動を実施している。



#### 学校教育との連携

##### ◇田植え体験学習の実施

JAふらの山部支所青年部と連携して町内の小学5年生を対象とした田植え体験学習を実施。農業体験を通して、農業用水利施設や水土里ネットの役割を紹介している。



#### 環境・景観保全活動

##### ◇ため池敷地内への植栽等の実施

ボランティア団体の協力を得て、ため池敷地内に花の苗500株を植栽しているほか、地域住民の協力を得て、用水路沿いの草刈、清掃活動を定期的に行い、環境・景観保全活動に積極的に取り組んでいる。



#### 多様な広報等

##### ◇パンフレットや小冊子等の作成配付

農業用水や水土里ネットの役割などを紹介したパンフレット等を作成し、地域住民等へ広く配付している。



### （3）受賞のポイント

- イベントへの参加や小学生を対象とした田植え体験等を通じて、水土里ネット、農業用水、農業・農村の多面的機能などの役割や重要性について積極的にPRしている。
- 農地・水保全管理対策の活動組織の事務局を担い、活動計画の指導・助言、活動計画の適正管理を行っている。
- 農業体験学習や景観保全活動等の実施にあたり、JA青年部や農地・水保全管理対策の活動組織、ボランティア団体等と連携を図り、外部にも開かれた運動が展開されている。
- 水土里ネットや農業用水の役割などを紹介した独自のパンフレットを作成し広く配布するほか、町の広報誌等も活用して水土里ネットの活動を積極的にPRしている。

### 3. 水土里ネット知内（知内土地改良区）

#### （1）水土里ネットの概要

- ①地区面積：809ha ②組合員数：273戸  
③関係市町村：知内町 ④役職員等数：総代35名、役員12名、職員4名

#### （2）21 創造運動の主な取組

##### 都市と農村の交流

###### ◇地域イベントへの参画

町が主催する「産業祭り」に参加し啓発グッズの配付等により農業水利施設の重要性や水土里ネットの役割をPRしている。



##### 関係団体・地域住民等との連携活動

###### ◇地域住民と連携した環境保全活動の推進

町内会等地域住民と連携し、各地域で用水路沿いの植栽活動や草刈清掃作業を行い、景観保全活動に努めている。また、郷土資料館と連携し、幹線用水路沿いにある古川沼でのバードウォッチング、施設見学会を実施し、施設の持つ多面的機能や農業水利施設の重要性等のPRを行っている。



##### 学校教育との連携

###### ◇幼稚園の社会科見学に協力

町内の幼稚園の社会科見学に協力し、子どもたちを知内ダムへ案内し、水土里ネットの役割等を紹介している。



##### 先駆的な農業・農村振興活動

###### ◇水土里デジタルアーカイブスの構築

土地改良の歴史資料等のデジタル保存を進めており、地域開拓の歴史の伝承を行っている。



#### （3）受賞のポイント

- イベントへの参加や施設見学会等を通じて、水土里ネット、農業用水、農業・農村の多面的機能などの役割や重要性について積極的にPRしている。
- 町内会など地域住民と連携を図りながら、景観保全活動が計画的に行われており、年々参加者も増えるなど活動の輪が広がっている。
- 施設見学会では、郷土資料館と連携して広く参加を募り、農業水利施設の役割を紹介するとともに、バードウォッチングも併せて行うなど参加者が興味を引く工夫も行っている。
- 土地改良の歴史資料を水土里ネット北海道と連携してデジタル保存し、ホームページに掲載するなど、地域の開拓の歴史伝承に取り組んでいる。

## 4. 水土里ネットおびひろ（帯広市土地改良区）

### （1）水土里ネットの概要

- ①地区面積：20,671ha ②組合員数：840戸
- ③関係市町村：帯広市 ④役職員等数：総代30名、役員11名、職員6名

### （2）21 創造運動の主な取組

#### 都市と農村の交流

##### ◇地域イベントへの参画

関係機関と連携して、「大正メークインまつり」に協賛し、水土里ネットおびひろのブースを設け、排水路や暗渠の模型展示、排水路の雑木を利用したコースターづくりなどを通して農業水利施設の重要性や水土里ネットの役割などをPRしている。



#### 関係団体・地域住民等との連携

##### ◇地域住民等と連携した植栽活動

多様な団体と連携して、小学校に隣接する排水路沿いの景観保全活動として、ヒマワリの植栽、種の収穫を行い、農業水利施設の役割等をPRしている。



#### 学校教育との連携

##### ◇自然観察会の実施

開発建設部、NPO法人等と連携し、幹線排水路において小中学生78名の参加による水生生物の観察会を実施。排水路の役割などのPRを行っている。



#### 先駆的な農業・農村振興活動

##### ◇農地・水・環境保全向上対策の積極的な推進

地区内の活動組織と緊密な連携を図り、地域内の農地、農業用施設の保全に向けて、効果の高い活動を行うための支援を行っている。

### （3）受賞のポイント

- イベントへの参加や自然観察会等を通じて、水土里ネット、農業用水、農業・農村の多面的機能などの役割や重要性について積極的にPRしている。
- 農地・水保全管理対策の活動組織や地域住民、子どもたち等と連携を図りながら、景観保全活動が計画的に行われており、年々参加者も増えるなど活動の輪が広がっている。
- 農業排水路で自然観察会を行い、子どもたちに農業水利施設の役割を紹介するとともに、生き物調査を行いながら環境・生態系保全に対する意識の向上を図っている。
- 自然観察会や景観保全活動等の実施にあたり、開発建設部や農地・水保全管理対策の活動組織、NPO法人、小学校等を連携を図り、外部にも開かれた運動が展開されている。